

令和 6 年度佐伯市学力定着状況調査 結果総括

令和7年2月
佐伯市教育委員会

【用語解説】

◇目標値…学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童生徒の割合。

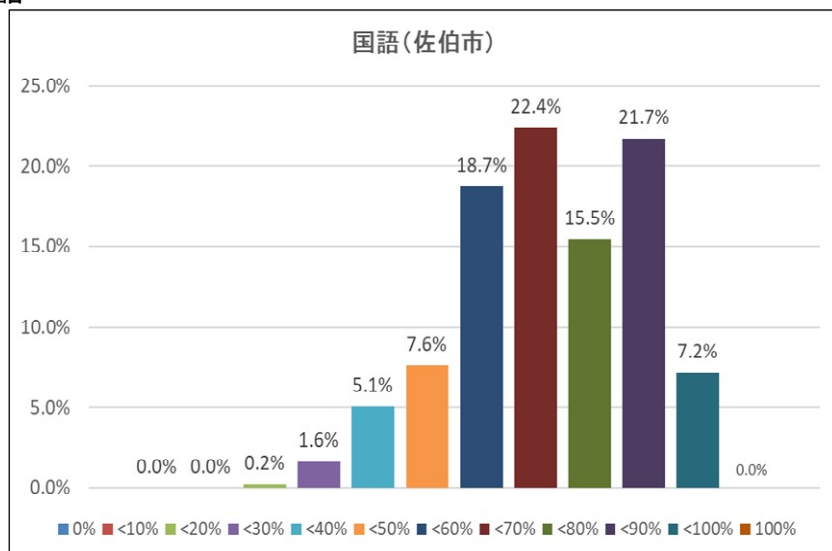
◇正答率…個々の設問について用いる場合は、その設問に正答した児童生徒の割合。

※教科総合・領域・観点などにおけるクラス・学年などの集団データとして用いる場合は、対象となる全設問におけるその集団の正答率の平均値。

※各学年ごとの結果総括において、全国平均を超えた佐伯市の数値には  を施しています。

< 小学校4年 >

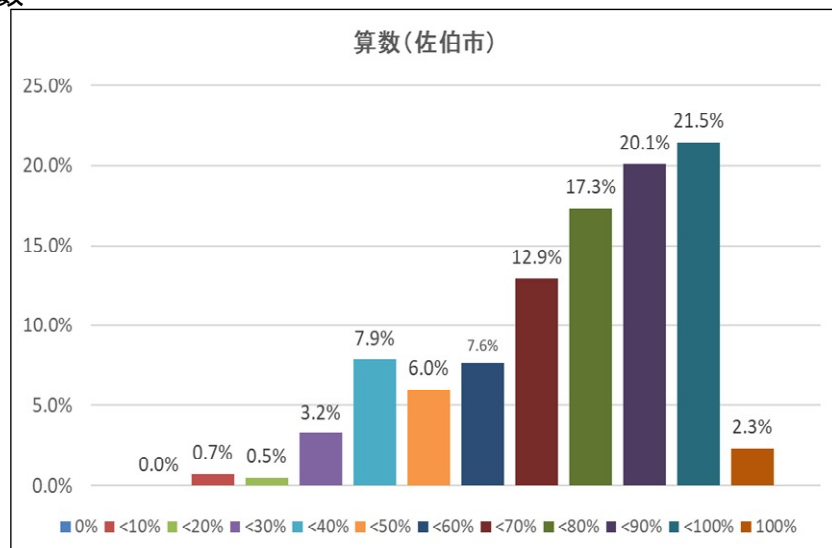
国語



【平均正答率】
佐伯市 67.0
全国 69.9

(国語)
 ∠70%(60～69%)の層が22.4%と最も多く、ついで∠90%の層が多くなっている。
 ∠60%以上の層と、∠50%以下の層の差が大きくなっている。

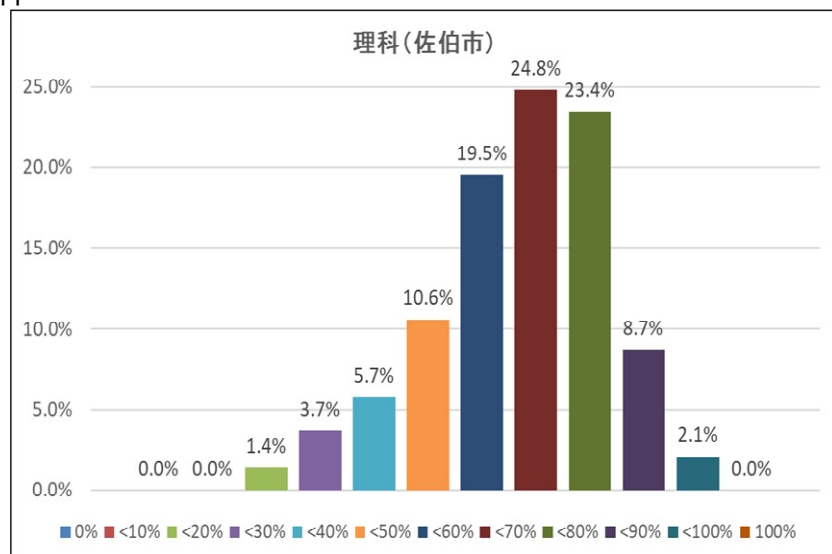
算数



【平均正答率】
佐伯市 70.3
全国 67.9

(算数)
 ∠100%(90～99%)の層が21.5%と最も多く、ついで∠90%、∠80%の層が多くなっている。正答率が80%を超える児童の割合が43.9%となっている。
 ∠40%以下の下位層が、12.3%と一定程度見られる。

理科

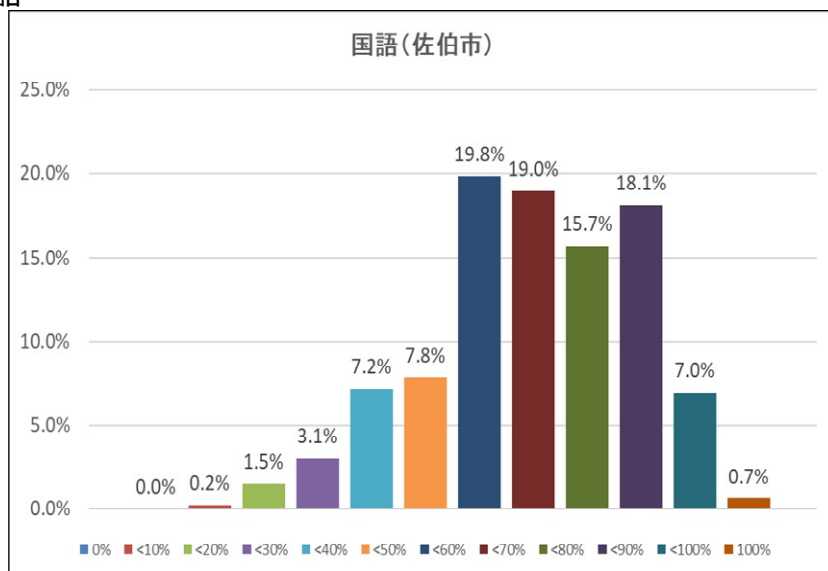


【平均正答率】
佐伯市 60.2
全国 57.0

(理科)
 ∠70%(60～69%)の層が24.8%と最も多く、ついで∠80%、∠60%の層が多くなっている。
 ∠60%、∠50%の中間層が、30.1%と一定程度見られる。

<中学校1年>

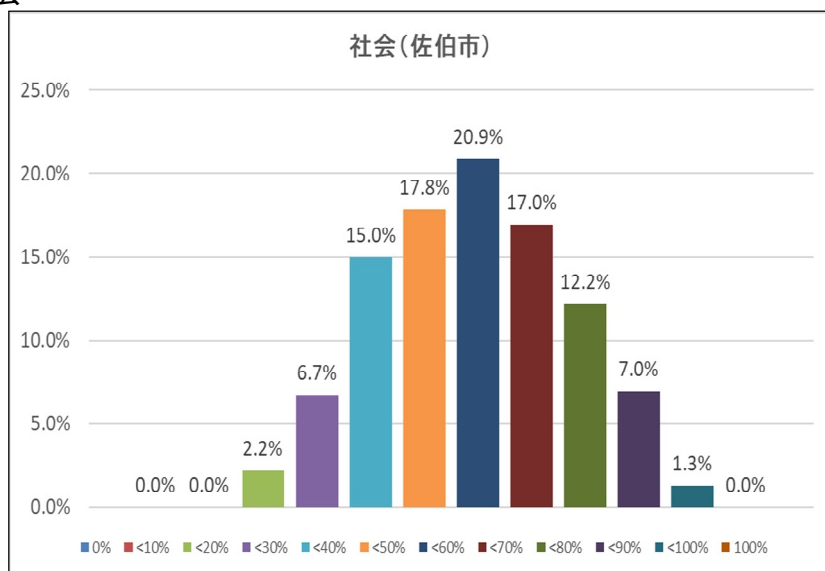
国語



【平均正答率】
佐伯市 64.4
全国 59.9

(国語)
 ∠60%(50～59%)の層が19.8%と最も多く、ついで∠70%、∠90%の層が多くなっている。∠60%以上の層と、∠50%以下の層の差が大きくなっている。
 ∠40%以下の下位層が、12%となっている。

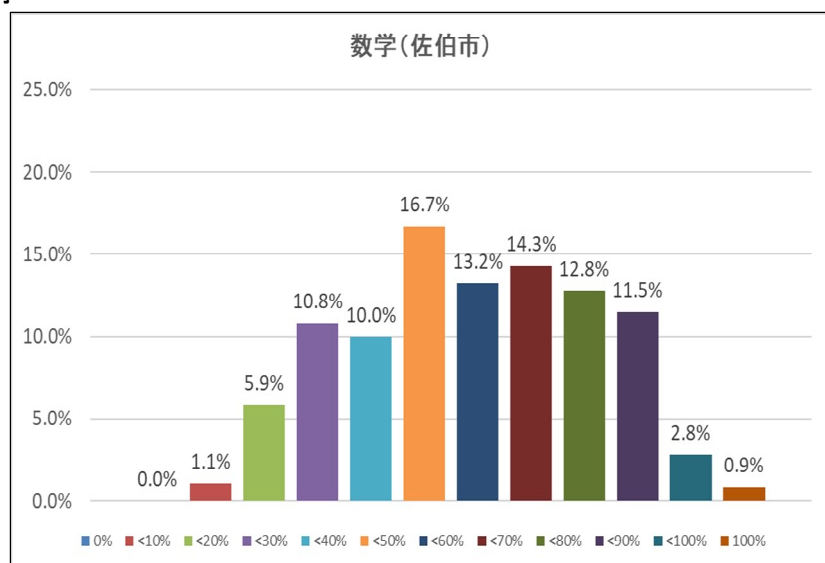
社会



【平均正答率】
佐伯市 52.7
全国 51.0

(社会)
 ∠60%(50～59%)の層が20.9%と最も多く、ついで∠50%、∠70%の層が多くなっている。
 ∠40%以下の下位層が、23.9%と一定程度見られる。

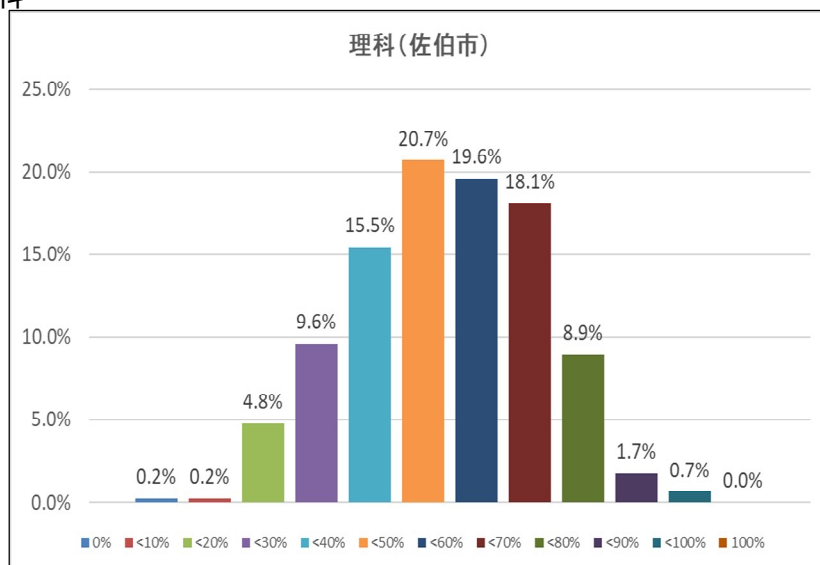
数学



【平均正答率】
佐伯市 54.3
全国 54.0

(数学)
 ∠50%(40～49%)の層が16.7%と最も多く、ついで∠70%、∠60%の層が多くなっており、各層にひろがっている。
 ∠40%以下の下位層が、27.8%と一定程度見られる。

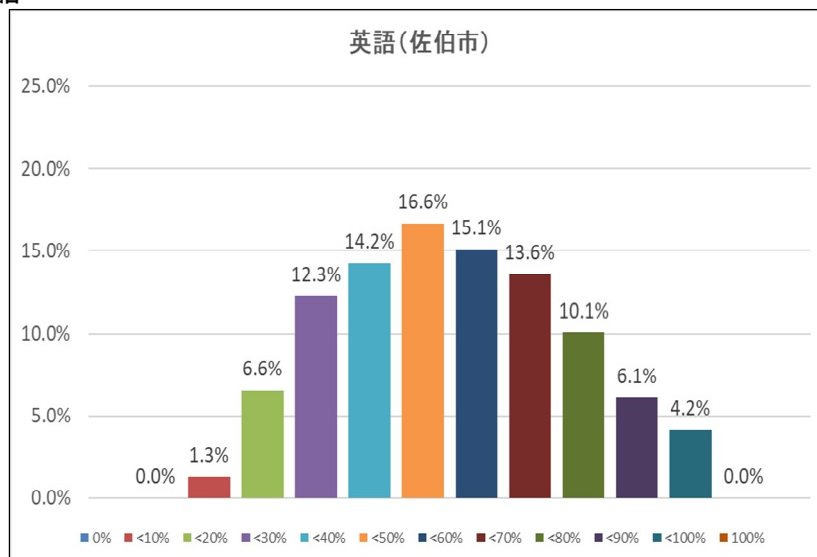
理科



【平均正答率】
佐伯市 47.5
全国 46.6

(理科)
 ∠50%(40～49%)の層が
 20.7%と最も多く、ついで
 ∠60%、∠70%の層が多く
 なっている。
 ∠40%以下の下位層が、
 30.3%と多くなっている。

英語



【平均正答率】
佐伯市 50.5
全国 56.8

(英語)
 ∠50%(40～49%)の層が
 16.6%と最も多く、ついで
 ∠60%、∠40%の層が多く
 なっている。
 ∠40%以下の下位層が、
 34.4%と特に多くなっている。

令和6年度佐伯市学力定着状況調査結果総括＜小学校4年＞

国語									
	佐伯市	目標値	全国平均			佐伯市	目標値	全国平均	
教科 の 正 答 率	全体	67.0	66.7	69.9	問題 の 内 容 別 正 答 率	話し合いの内容を聞き取る	77.3	68.3	83.2
	基礎	69.7	69.4	72.8		漢字を読む	97.9	90.0	95.3
	活用	61.8	61.7	64.4		漢字を書く	55.0	65.0	66.7
領域 別 正 答 率	言葉の特徴や使い方	68.8	69.5	72.1		言葉の学習	64.1	63.0	68.3
	情報の扱い方	47.7	50.0	46.0		物語の内容を読み取る	74.8	68.3	76.4
	我が国の言語文化	79.4	80.0	87.9		説明文の内容を読み取る	50.7	56.7	52.8
	話こと・聞くこと	61.1	62.0	66.3		読めてわかったことを発表する	36.8	52.5	40.9
	書くこと	70.2	67.5	67.7		文章を書く	70.2	67.5	67.7
	読むこと	62.8	62.5	64.6					

＜結果概況＞
○教科の正答率は、基礎・活用ともに全国平均を下回った。
○領域別正答率は、「情報の扱い方」「書くこと」の2領域のみが全国平均を上回るに留まった。

＜課題と対策＞
問題の内容別に全国平均と比較すると、「漢字を読む」「文章を書く」は上回ったものの、それ以外の問題で1.6～11.7ポイント下回る結果となった。特に、漢字については、「読む」ことはできるが「書く」ことが難しいという現状が顕著になった。
「話すこと・聞くこと」においては、大問題1(2)「話し方の工夫として共通していたこと」を問う問題の正答率が低いことから、耳から入る情報を正しく捉えた上で話し手の工夫やその特徴を捉えることが難しいと思われる。「読むこと」にも通じることであるが、情報全体を構造的に捉えて、まとめ(段落)ごとに相互の関係を理解する力が求められる。
「読むこと」においては、物語文・説明文ともに全国との有意差は無いが、物語文に比べて説明文の読み取りが低く、20ポイント以上の差がある学校が11校あり、情報の取り出しとその扱い方に関する指導の充実が求められる。

算数									
	佐伯市	目標値	全国平均			佐伯市	目標値	全国平均	
教科 の 正 答 率	全体	70.3	66.5	67.9	問題 の 内 容 別 正 答 率	億と兆・概数の表し方	78.2	80.0	79.6
	基礎	73.0	70.2	70.9		わり算	64.1	65.0	63.2
	活用	64.0	57.8	60.9		小数	72.5	66.0	67.8
領域 別 正 答 率	数と計算	73.3	70.0	70.3		計算のきまり	75.2	67.5	66.8
	図形	61.0	58.1	61.4		垂直・平行と四角形	51.4	49.0	49.9
	変化と関係	73.1	68.3	70.9		角の大きさ	77.1	73.3	80.4
	データの活用	77.7	65.0	69.4		簡単な場合についての割合	73.1	68.3	70.9
						折れ線グラフ	77.7	65.0	69.4

＜結果概況＞
○教科の正答率は、基礎・活用ともに全国平均を上回った。
○領域別正答率は、「数と計算」「変化と関係」「データの活用」で全国平均を上回った。

＜課題と対策＞
問題の内容別に全国平均と比較すると、「億と兆・概数の表し方」の内容で全国平均を下回った。
大問題3(1)「ある数までの概数の表し方を求める」問題は、全国正答率を15.7ポイント下回った。概数を求めるには、どの位を四捨五入すればよいのか、四捨五入する位の数字に印を付けさせるなど、正確に求めることができるような指導が必要である。また、大問題5(2)「3桁÷1桁＝3桁(余りなし)」の問題では、筆算の商の立てる位置を正しく理解できていない解答が見られた。さらに、大問題11「分度器の中に示された角の大きさ」を解答する問題では、角の大きさの概念が理解できていない誤答が多く見られた。
四則計算や算数用具の正しい使い方など、基本的な知識及び技能の定着状況を見取ったり、繰り返し練習を行ったりする必要がある。

理科									
	佐伯市	目標値	全国平均			佐伯市	目標値	全国平均	
教科 の 正 答 率	全体	60.2	60.3	57.0	問題 の 内 容 別 正 答 率	1年間の植物の成長	43.7	45.0	44.7
	基礎	68.0	66.3	64.4		1年間の動物の様子	82.2	76.7	75.1
	活用	44.6	48.5	42.3		天気の様子と気温	53.7	53.3	48.3
領域 別 正 答 率	物質・エネルギー	51.5	58.3	52.7		電気のはたらき	31.8	41.3	30.8
	生命・地球	63.9	61.2	58.9		動物の体のつくりと運動	68.0	65.0	62.5
						月と星	60.3	57.5	55.2
						物の体積と力	75.1	80.0	78.6
						物の体積と温度	55.4	60.0	57.9
						雨水の行方と地面の様子	79.4	73.3	71.0

＜結果概況＞
○教科の正答率は、基礎が全国平均を上回った。
○領域別正答率は、「生命・地球」の領域で全国平均を上回った。

＜課題と対策＞
問題の内容別に全国平均と比較すると、「1年間の植物の生長」「物の体積と力」「物の体積と温度」の内容で全国平均を下回った。
「電気のはたらき」の内容で、大問題10(2)①「乾電池のつなぎ方をもとに豆電球の明るさとモーターの速さを予想して記述する」問題の正答率は10.6%、無回答率は18.9%であった。また、大問題10(3)「ボートを速く進ませるために乾電池の数とつなぎ方をどうすればよいか説明する」問題の正答率は11.7%、無回答率は17.9%であった。
2つの問題とも、乾電池のつなぎ方、乾電池の数など問題が求める条件を記述していない解答が多く見られた。授業において、理科的専門用語を使って自分の考えを書かせること、さらに、条件に適した解答ができているか一人ひとりを見取り、個に応じた指導を行うことが大切である。

令和6年度佐伯市学力定着状況調査結果総括＜中学校1年＞

国語				問題の内容 別正答率		佐伯市	目標値	全国平均	＜結果概況＞ ○教科の正答率は、基礎・活用ともに全国平均を上回った。 ○領域別正答率は、「情報の取扱い方」のみ全国平均を下回ったが有意差は無い。 ＜課題と対策＞ 問題の内容別に見ると、「漢字を読む」と「文学的な文章の内容を読み取る」において、全国平均を下回っているが、有意差は無く全国平均並みと捉えてよい。 しかし、大問題5(1)「主人公が友人のことを「うらやましい」と思った理由を答える(4択)」問題の正答率が52.5%であったことは憂慮すべき点である。これは、長文を読み通し、描写をもとに登場人物の心情を捉えることが難しい生徒が約半数いるということであり、言い換えれば、「うらやましい」などの心情表現の真意を想像する力が十分に育っていないということになる。①言葉の奥にある作者や主人公の気持ちに思いを馳せそれを伝え合う活動、②朝読書などゆったりと読み浸る活動、③演劇的手法を取り入れた表現活動(心情表現)等を位置づけながら、小学校低学年のうちから経験的に身に付けていく必要がある。 特筆すべきは、「文章を書く」問題における正答率が全国平均を約20ポイント上回っていることである。この点においては、差こそ大きくはないものの、小学校においても同様で、本市の強みの一つであると言える。
教科の正答率	全体	64.4	57.5	59.9		話し合いの内容を聞き取る	62.9	56.7	59.4
領域別正答率	基礎	72.5	65.6	68.2		漢字を読む	89.5	86.7	92.6
	活用	49.0	42.2	44.2		漢字を書く	68.4	66.7	68.3
	言葉の特色や使い方	71.5	66.7	69.4		文法・語句に関する事項	64.0	53.8	55.1
	情報の扱い方	35.1	35.0	35.2		説明的な文章の内容を読み取る	49.2	46.7	48.3
	我が国の言語文化	86.1	75.0	78.1		文学的な文章の内容を読み取る	60.9	60.0	62.8
	話すこと・聞くこと	62.9	56.7	59.4		報告する文章を書く	38.6	36.7	38.0
	書くこと	60.7	47.1	49.1		文章を書く	77.3	55.0	57.4
	読むこと	55.0	53.3	55.5					
社会				問題の内容 別正答率		佐伯市	目標値	全国平均	＜結果概況＞ ○教科の正答率は、基礎・活用ともに全国平均を上回った。 ○領域別正答率は、地理・歴史ともに全国平均を上回った。 ＜課題と対策＞ 問題の内容別に全国平均と比較すると、4つの領域で全国平均を上回ったが、「日本の姿」「飛鳥時代～平安時代」の領域で全国平均を下回った。 「日本の姿」の内容で、大問題2(1)①「北方領土についての理解を問う」問題では、択捉島の位置を得撫島と間違える解答が全体の約41%あり、全国正答率を9.2ポイント下回った。また、②「沖ノ鳥島の写真を見て位置を問う」問題でも約45%が正しい位置を選択できていなかった。名称とともに写真情報や地図上の位置などの知識を関連づけて理解するための取り組みが必要である。 歴史の領域では、大問題6(1)「大化の改新の時期が他の出来事との関係の中でどこに位置付くかを問う」問題や、(2)「天皇家の系図を読み取る」問題の正答率が全国平均を下回っている。また、大問題7(1)氷期の終わりによる日本列島の形成について記述する問題では、正答率22%、無解答率31.5%、題意に沿った解答になっていないものも46%と多い。出題の内容や、解答に必要な情報が何かを判断し、表現する場面を意図的に設定していく取り組みが大切である。
教科の正答率	全体	52.7	51.2	51.0		世界の姿	60.1	52.5	52.4
領域別正答率	基礎	57.3	55.5	55.1		日本の姿	57.0	58.3	60.4
	活用	40.1	39.4	40.0		世界各地の人々の生活と環境	59.1	56.3	55.7
	地理	54.8	52.0	52.2		世界の諸地域	43.4	42.5	42.4
	歴史	50.6	50.3	49.9		古墳時代まで	52.3	50.0	50.1
						飛鳥時代～平安時代	48.7	50.7	49.6
数学				問題の内容 別正答率		佐伯市	目標値	全国平均	＜結果概況＞ ○教科の正答率は、基礎・活用ともに全国平均を上回った。 ○領域別正答率は、「数と式」の領域で全国平均を上回った。 ＜課題と対策＞ 問題の内容別に全国平均と比較すると、「1次方程式」「比例・反比例」の内容で全国平均を下回った。 大問題11(1)「比例のグラフから、xとyの関係を表した式を選ぶ」問題は、グラフからxとyの値を読み、比例定数を求め関係を式に表すことができていなかった。また、大問11(3)「比例の式から、そのグラフ上にある座標を選ぶ」問題では、全国正答率を7.3ポイント下回った。基礎的な知識及び技能について定着状況を一人ひとり見取ったり、繰り返し練習を重ねたりする必要がある。 大問題17(1)「与えられた情報から正しい座標を求める」問題では、正答率が11.5%と低かった。誤答の多くが、グラフから読み取った座標を記入しているもので、題意に沿った解答をしていなかった。授業において、題意を正確に捉えさせること、条件に適した情報を取り出すことを丁寧に扱う必要がある。
教科の正答率	全体	54.3	53.4	54.0		正の数・負の数	66.0	63.9	65.2
領域別正答率	基礎	59.1	58.3	59.1		文字式	42.0	40.0	38.0
	活用	43.6	42.8	42.6		1次方程式	61.5	58.3	62.2
	数と式	60.5	58.1	59.7		比例・反比例	44.2	45.9	44.7
	関数	44.2	45.9	44.7					
理科				問題の内容 別正答率		佐伯市	目標値	全国平均	＜結果概況＞ ○教科の正答率は、基礎が全国平均を上回った。 ○領域別正答率は、「エネルギー」、「生命」の領域が全国平均を上回った。 ＜課題と対策＞ 問題の内容別に全国平均と比較すると、「気体の性質」「水溶液の性質」「物質の状態変化」で全国平均を下回った。「水溶液の性質」は、全国平均より6.4ポイント下回っている。 「物質の状態変化」の内容で、大問題8(2)「氷になった水の粒子の間隔と運動の様子について記述する」問題は、正答率が1.7%、無解答率が21.4%であった。また、「気体の性質」の内容で、大問題5(3)「実験で発生した気体が水素であることを確かめるために実験手順をどのように変えればよいか簡潔に記述する」問題は正答率21.4%、無解答率が32.2%であった。前者は、2つの条件(粒子の間隔と運動の様子)について記述していない解答が多く見られ、後者は、問題が尋ねている内容とは異なり、発生した気体が水素であることを調べる実験方法を記述している解答が多く見られた。 条件を踏まえて自分の考えを書かせる活動を充実すること、さらに、問題文を正確に捉えることができるか、条件に適した解答ができていないか一人ひとりを見取り、個に応じた指導を行うことが大切である。
教科の正答率	全体	47.5	52.8	46.6		植物の分類	55.1	50.0	48.1
領域別正答率	基礎	52.3	56.3	50.5		動物の分類	78.6	77.5	75.9
	活用	39.1	46.8	39.9		身の回りの物質とその性質	60.9	61.3	57.2
	エネルギー	36.3	48.8	35.9		気体の性質	43.3	51.3	44.5
	粒子	39.7	48.8	41.5		水溶液の性質	26.7	42.5	33.1
	生命	64.5	61.0	59.2		物質の状態変化	27.7	40.0	31.1
						光の性質	36.3	48.8	35.9
英語				問題の内容 別正答率		佐伯市	目標値	全国平均	＜結果概要＞ ○教科の正答率は、基礎・活用ともに全国平均を下回った。 ○領域別正答率は、「書くこと」の領域で全国平均を上回った。 ＜課題と対策＞ 問題の内容別に全国平均と比較すると、「単語の並べ替えによる英作文」「3文以上の英作文」は全国平均を上回ったが、それ以外は下回った。 「語形・語法の知識・理解」は全国平均より12.8ポイント下回っている。特に、大問題5(1)②「主語が複数の場合の一般動詞の疑問文をつくる問題」では、全国正答率を30.9ポイント下回っている。主語が3人称単数の場合の質問の仕方や答え方についての理解と、1つの単語にとらわれず、英文全体から場面や状況を読み解くことができるように、授業において対話文のやりとりを充実させる必要がある。 また、大問題6・7の長文問題においては、全国正答率を下回っている問題が多い。文章全体を読んで概要を捉えることができるようにすることが学習指導要領において求められている。そのために、読むことの領域において、付けたい力に適した言語活動を位置付けた授業を充実させていくことが大切である。さらに、聞いて書く、読んで書くなど、領域と領域をつないだ統合的な単元構成も必要である。また、定着・習熟を目的とした学習においては、グラフや図、対話文等の中から必要な情報を取り出し、複数の情報を結びつけて英文を読むことの習慣を図っていくことが大切である。 教科の評定別人数比では、5段階中2の生徒が6割をこえている。主語や動詞を意識した語順、疑問詞は文頭に置く等の基本的な知識が定着していない生徒も多く見られた。1年生の英語のつまづきは、今後にも影響してくるため、授業の帯活動等で基礎基本の定着の時間をとり、4技能5領域のバランスの取れた学習活動を計画的、継続的に行うことが大切である。
教科の正答率	全体	50.5	61.1	56.8		リスニング(内容理解)	76.9	86.7	85.2
領域別正答率	基礎	53.7	65.2	61.0		リスニング(対話文の応答)	38.2	55.0	45.8
	活用	43.8	52.5	48.1		リスニング(さまざまな英文の聞き取り)	68.9	75.0	75.4
	聞くこと	56.5	69.4	64.3		語形・語法の知識・理解	49.0	70.0	61.8
	読むこと	49.7	63.6	59.8		語彙の知識・理解	73.4	80.0	78.0
	書くこと	46.4	50.0	45.5		さまざまな英文の読み取り	46.1	58.8	55.9
						長文の読み取り	42.3	53.8	52.7
						単語の並べ替えによる英作文	53.3	57.5	51.6
						場面に応じて書く英作文	17.0	27.5	23.2
						3文以上の英作文	56.9	55.0	52.3